

## 令和元年度第1回自治体等FM連絡会議（呉大会） の報告

### 1 はじめに

令和元年7月11日(木)から12日(金)までの2日間、広島県呉市（呉市役所本庁舎）において、令和元年度第1回自治体等FM連絡会議を開催しました。

呉市は、昨年7月の豪雨災害により、甚大な被害を受けました。災害発生直後から、自衛隊をはじめ国や県、その他の自治体などの関係機関、ボランティアの皆様など、全国の多くの方々に、御尽力、御支援をいただきました。

昨年7月には、次年度の自治体等FM連絡会議の呉市開催が決定しておりましたので、被災当初は、呉市において開催できるかどうか心配していましたが、こうして、約200名の自治体職員にお集まりいただき、無事、開催できたことに感謝しております。



会場の様子

### 2 テーマ

公共施設等総合管理計画の改定が求められる中、国土交通省のロードマップでは、令和2年度を目途に、公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画を策定することとなっています。既に個別施設計画を策定し実践している自治体、現在策定中の自治体、これから策定を進める自治体など、その進捗度に差があります。

計画はできても、その計画を実践しなければ意味がありません。個別施設計画の策定目標年度が迫っていることもあり、今回の自治体等FM連絡会議が、先進自治体の取組を学ぶことのできる最後のチャンスと考えました。



分科会の様子

そこで、実際に実践している自治体の取組からヒントをもらい、「実践」につながる有意義なもの

になるよう祈念し、「実践しなきゃ意味がない！—使える個別施設計画を考える—」をテーマに開催しました。

### 3 開催自治体の取組発表

新原呉市長の開催市挨拶の後、呉市 企画部 参事 森下益生氏により、呉市において、ハコモノといわれる公共施設について、施設の活性化を図り、更なる市民サービスの質の向上に向けた取組である「呉市公共施設白書の作成 (H23. 3, H28. 3)」、  
「呉市公共施設再配置計画の策定 (計画期間:H24. 6~H30. 3)」、「呉市公共施設等総合管理計画の策定 (H28. 3)」等について説明されました。



森下益生氏

## 4 講演・分科会

### (1) 講演1 「公共施設等を取り巻く環境と生きる手段としてのPPP/PFI I ~発想の転換/ユルクトンガル/アカルイミライ~」

特定非営利活動法人 日本PFI・PPP協会 業務部長 寺沢弘樹氏により公共施設等を取り巻く環境と生きる手段としてのPPP/PFIについてご講演をいただきました。

全国各地のPPP/PFIの成功例、失敗例を含め、耳の痛くなるようなお話をいただ

きました。

これまでの発想にとらわれない自治体経営の手法や、やる気と覚悟が必要だということ等、分りやすく説明していただきました。



寺沢弘樹氏

### (2) 講演2 「自治体の特徴に応じた公共施設マネジメント手法」

岩手県立大学公共政策研究所 客員研究員 上森貞行氏により自治体の特徴に応じた公共施設マネジメント手法と盛岡市での取組についてご講演をいただきました。

上森氏は盛岡市の職員でいらっしゃるとともに、岩手県立大学 公共政策研究所の客員研究員として、先進的な自治体を中心に公共施設のマネジメントに関する調査や研究をされております。

研究における分析から分類された4つの公共施設のマネジメントの特徴をご紹介いただき、自治体の特徴に応じて、自治体の目指す方向性を見極めることが大事であると、アドバイスをいただきました。

また、盛岡市の個別施設計画の実践に係る取組について、庁内の合意形成手法、市民参加の手法等の具体的な事例を交え、お話いただきました。



上森貞行氏

(3) 講演3 「3次元で発想しよう 津山市版  
リアル個別施設計画」

津山市 財政部 財産活用課 主幹兼係長  
川口義洋氏により津山市の個別施設計画につ  
いてご講演をいただきました。

何度も何度も参加者の笑いを誘う、楽しい  
講演でしたが、内容はリアルな自治体の課題・  
問題点を川口氏自らの行動でもって対応した  
事例など、自分事として3次元で考え、実践さ  
れており、川口市の熱い思いが伝わる内容で  
した。



川口義洋氏

(4) 分科会 1-A 「払い過ぎやで!電気代!!  
～姫路市の電力入札～」

姫路市 総務部 行財政改革推進課 主任  
谷口順哉氏により姫路市が実践した電力入札

についてご講演をいただきました。

公共施設を最小のコストで維持するため、  
自由化された電力について入札を実施するこ  
とは、FMの一つの手法で、公共施設等総合管  
理計画においても、LCC（ライフサイク  
ルコスト）削減の効果が期待できる手法であ  
ると、ご紹介いただきました。

1施設ごとではなく、電力使用規模が同じ  
施設をスケールメリットと事務・手間の観点  
から複数でグルーピングした結果、かなりの  
削減効果を出たそうです。



谷口順哉氏

(5) 分科会 1-B 「マイナス入札の取組」

深谷市 企画財政部 公共施設改革推進室  
補佐兼係長 大野忠憲氏により全国で初のマ  
イナス入札の取組についてご講演をいただき  
ました。

平成31年2月開催の東京大会でのアンケ  
ートで、深谷市のマイナス入札のお話を聴き  
たいというご意見をたくさんいただきました。

そこで、深谷市の大野氏に連絡したところ、  
快く引き受けてくださり、今大会での講演が  
実現しました。

マイナス入札を実施したきっかけ、制度の  
構築、効果等についてお話しいただきました。

講演終了後、たくさんの自治体の方が大野

氏との名刺交換をするため、長い列ができ、とても印象的でした。



大野忠憲氏

(6) 講演（質問形式）「PPPによるハコモノ総量の縮減」

国土交通省PPPサポーター 稲垣仁志氏（大和リース(株) 札幌支店 副支店長）によりPPPによるハコモノの縮減についてご講演をいただきました。

前半は稲垣氏により、全国のリース方式の実践を多数ご紹介いただきました。リース方式を活用した施設の総量の縮減は、個別施設計画を実践していく上で、有効な手法の一つであると実感しました。



稲垣仁志氏

後半は、リース方式と従来型（自治体が補助金等で建設）のメリット、デメリット等について、質問形式で進められました。

5 最後に

当市の資産経営課は5人の職員でFMの推進に取り組んでいるところでございます。

私事ではございますが、今年度の人事異動で、これまでFM連絡会議に参加してきた職員全員が異動してしまい、残された私がFM連絡会議の担当となりました。そのため、至らぬ点が多々あり、幹事の皆様に何かとご心配をおかけしました。

異動した先輩からはたくさんのアドバイスをもらい、また、大会当日も、分科会の進行役になっていただくなど、いろいろと助けてくださいました。

こうして、皆様にささえられ、令和の第1回目のFM連絡会議を、無事、終わることができました。

FM連絡会議に初めて参加させていただき、各自治体のFM担当の方の情熱的・積極的な取組が、このような先進事例につながっていると感じました。

本大会のテーマでもありました「実践しなきゃ意味がない！—使える個別施設計画を考える—」のとおり、これからの取組につながるきっかけになる事例をたくさん聴かせていただきました。

今回、ご講演いただきました講師の皆様、ご参加いただきました皆様、お手伝いいただきました幹事の皆様に、心から感謝を申し上げます。



交流会の様子